

第3回日露エネルギー・環境対話 宣言文

2010年5月13日

ハバロフスク市

エネルギー・環境分野における日露対話は、ロシア極東及びシベリアのみならず、日本及びロシア全体にとっても大きな成果を挙げた。このような会合の開催は、両国の経済関係の強化・拡大を促進し、さまざまな分野における経済協力の活性化に大きな意義を有する。

北東アジアはダイナミックに発展しつつある地域であり、エネルギー需要の急速な拡大が見込まれている。北東アジア諸国におけるエネルギー資源需要は、各国自身の供給能力及び輸入によって賄われる。今日、北東アジア諸国では、ロシアのエネルギー供給力を考慮しつつ、戦略的燃料の新たな配分システムを構築する必要がある。

近年、ロシアの東部地域では、アジア太平洋諸国向けの一連の大規模燃料・エネルギープロジェクトや交通インフラプロジェクトが計画され、実施に移されてきている。これらのプロジェクトの実施は、エネルギー・交通インフラの国際協力をさらに発展させ、ロシアとアジア太平洋地域との経済関係の強化を促進する。

ロシアの東方エネルギー政策の実施の第一段階は、「東シベリア 太平洋」石油パイプラインの建設及び東シベリアにおける大規模油田の生産開始と結びついている。「東シベリア 太平洋」石油パイプラインの建設により年間 8,000 万トンの石油をロシアからアジア太平洋地域諸国に輸送する可能性が開かれる。この地域では、全世界の石油需要の約3分の1が消費されている。

新潟は海外からの石油、LNG 等の受け入れ基地を持ち、日本国内の需要地への配送と利用技術を持っている。また、ハバロフスクは極東ロシアの交通の枢軸を担っている。これらの産業都市間の協力は日本向けエネルギー資源輸出の拡大に大きな役割を果たす。

次の段階では、ロシア東部地域で天然ガス採掘量の増加及びガスの生産、輸送、北東アジア諸国市場への輸出も含めたガス供給の統合システムの構築が計画されている。

地域の燃料の天然ガスへの転換（「地域のガス化」）、天然ガスの利用技術、極東におけるガス化学工場建設の分野に関する共同研究における日露間の協力は大きな意義がある。

最も重要なプロジェクトは、サハリン大陸棚や東シベリアから沿海地方南部、さらには北東アジア諸国への天然ガス輸出につながるガスパイプラインの建設である。

これらの大規模な石油・ガス輸送システムが稼働することにより、国内外の投資家が新たな炭化水素鉱床の開発を進めるための条件が整い、またロシア東部における石油精製やガス化学工業の発展が大いに刺激される。

最近、電力分野での国際協力の発展におけるロシア極東の戦略的立場が強化されている。水力発電の潜在力が大きいことや大規模な石炭鉱床・天然ガス鉱床が存在していることなどから、ロシア東部において大出力の発電施設を建設し、また北東アジア諸国とロシアとの互恵的な電力輸出入関係を築くための電力ブリッジを建設するための好条件が形成されている。

良質の原料炭及び発電用燃料としての一般炭の巨大産地である南ヤクーチヤのエリガ炭田の日露企業の共同開発と、それに伴う鉄道・港湾インフラの整備に対する日露間の協力は、両国にとって大きな肯定的効果を与える。

北東アジア諸国及び日本とのエネルギー国際協力について、ロシア側では、従来からのエネルギー資源開発やその輸出だけではなく、投資誘致や、双方の経験、先端技術及びハイテク設備の交換といった面での恩恵も得られると見ている。

2009年5月、プーチン首相立会いの下、日本国経済産業省とロシア連邦エネルギー省は、エネルギー効率の向上及び再生可能エネルギーの利用の分野における協力に関する覚書に調印した。

覚書の実現のための共同の協力計画を策定すること及び日本製の高效率設備や技術が大規模にロシアに導入するための仕組みを構築することが提案される。その作業は極東から開始される。

燃料転換や効率向上に関する日露協力プロジェクトを推進し、CO₂排出量削減を進め、両国間での排出権取引を実現することが期待される。

ハバロフスク地方は極東連邦管区内で地理的に有利な位置にある。域内には相当の産業基盤が築かれており、ハバロフスク地方の交通インフラは、極東地方における重要な運輸拠点の一つであると同時にロシアの対外経済関係を支える重要な役割を果たしている。

ハバロフスク地方の経済発展における優先課題の一つは、「ワニノ・ソビエツカヤ・ガワニ交通・産業拠点」の発展と、ソビエツカヤ・ガワニ市における港湾型特別経済区の発展である。しかしながら、現状では、ワニノ・ソビエツカヤ・ガワニ拠点を通じて輸送されるエネルギー資源輸送を担う鉄道インフラの能力不足が不安視されている。

ここで計画されているのは、新たな港湾施設の整備、製造業の整備及び鉄道インフラの増強である。バイカル・アムール幹線鉄道沿線地域で発生するワニノ港、ソビエツカヤ・ガワニ港向け貨物量は、2020年までに8,000万トン以上に達する計画である。

これらの計画を実現するためには、地域の電力インフラの整備と相当額の投資を誘致することが必要である。

日露対話の参加者は、今回の会合で検討された双方からの提案が、エネルギーの供給国であるロシアと需要国である日本との相互理解を深めることに有意義であり、ロシアと北東アジア諸国とのエネルギー協力の発展を多面的に促進することを確信している。

今回の対話に参加した両国政府、地方自治体、民間企業の関係者は双方から出された提案を実現するために、関係機関が積極的に取り組むことを確認する。